授業科目名	小児看護学援助論(2300217)		
時間割名	小児看護学援助論(21206)		
時間割担当	上本野唱子		
実施期	前期	単位数	2　必修
曜日・時限	火・1		

■授業の目標・概要

小児の健康破綻が、小児およびその家族の機能に及ぼす影響を理解し、小児の成長・発達と健康生活の向上を支援する看護援助のあり方を考える。

対象にあった効果的な看護支援を展開するための科学的な思考および実践課程（看護問題の明確化とその解決策の立案および実践の効果検討方法）について基礎的知識を習得する。

■学習の到達目標

１）様々な健康状態にある児とその家族の家族機能及び役割の変化が理解できる。
２）様々な機能障害を持つ児および家族の生活への影響が理解できる。
３）機能障害を持つ児及び家族の看護過程が立案できる。
４）小児に特有な看護技術を実践する基礎的技術を実践することができる。

■授業方法・形式

講義及び演習。

学習の到達目標の１）、２）は講義で、３）、４）は演習で行う。
３）については事例をもとに実践する。
４）については身体計測（身長、体重、頭囲、胸囲、腹囲）、バイタルサインの測定（体温、呼吸、心音、マンシェットの選択）、身体の抑制（おくるみ法、抑制帯）、点滴時の固定（静脈留置針、ルート、点滴肢のシーネ固定）、検体採取時の身体抑制（腰椎穿刺、骨髄穿刺時の抑制）、採尿パックの貼付、気管内吸引を、モデル人形を用いて実践する。

■授業計画

第　１回　オリエンテーション
第　２回　外来における小児と家族の看護
第　３回　入院を必要とする小児と家族の看護
第　４回　小児期に多い事故とその予防および看護
第　５回　呼吸器に障害を持つ子供の看護（肺炎に罹患した児の事例を基に学ぶ）
第　６回　循環器に障害を持つ子供の看護（先天性心疾患を持つ児の事例を基に学ぶ）
第　７回　免疫機能低下状態にある子供の看護（“小児がん”に罹患した児の事例を基に学ぶ）
第　８回　免疫機能障害のある子供の看護（気管支喘息を持つ児の事例を基に学ぶ）
第　９回　消化・吸収機能に障害を持つ子供の看護
第10回　代謝機能に障害を持つ子供の看護（１型糖尿病を持つ児の事例を基に学ぶ）
第11回　排泄機能に障害を持つ子供の看護（ネフローゼ症候群、急性腎炎に罹患した児の事例を基に学ぶ）
第12回　身体に障害を持つ子供の看護（重症心障がい児の看護を中心に学ぶ）
第13回　小児看護における援助技術
第14回　小児看護における援助技術（身体計測、バイタルサインの測定、身体の抑制方法、輸液、検体採取、気管内吸引
第15回　小児看護における援助技術（身体計測、バイタルサインの測定、身体の抑制方法、輸液、検体採取、気管内吸引
第16回　小児看護における援助技術（身体計測、バイタルサインの測定、身体の抑制方法、輸液、検体採取、気管内吸引
第17回　小児看護における援助技術（身体計測、バイタルサインの測定、身体の抑制方法、輸液、検体採取、気管内吸引
第18回　看護過程の展開（事例を基に看護を考える）
第19回　看護過程の展開（事例を基に看護を考える）
第20回　看護過程の展開（事例を基に看護を考える）
第21回　看護過程の展開（事例を基に看護を考える）
第22回　小児看護学援助論のまとめ

■成績評価の基準

筆記試験60%、課題及び演習記録30%、課題の提出状況10%

■授業時間外の課題

第5回から12回は病態生理が理解できていないと援助方法が考えられないことがあります。病態生理を復習し、整理しておいてください。

■メッセージ

小児看護の対象は児とその家族です。また、発達段階に応じた身体の変化も考慮しつつ、看護を提供していかなくてはなりません。身近な教師はあなたの親（家族）です。自分が子どものころ病気になった時、親や家族は何を思い、何をしてくれたのかを尋ねることも看護を考えるきっかけになると思います。

演習は欠席しないこと。演習は臨地実習の基礎となるばかりではなく、看護実践そのものと考えて、日常生活、体調管理をしっかり行い出席してください。やむを得ず欠席した場合は、できるだけ早いうちに教員のところを訪れ、欠席した時間の学修について相談してください。

■教材・教科書

小児臨床看護各論ー小児看護学〈2〉 (系統看護学講座 専門分野)、医学書院
ナーシング・グラフィカ　小児看護学②　小児看護技術　MC　メディカ出版

■参考書

必要時紹介します。